

# 心電図伝送システム寄贈

## 死亡率や治療遅延の改善へ

豊橋ハートセンター  
市消防本部へ8台



一刻も早い治療が必要な心筋梗塞などの治療につなげようと豊橋市大山町の豊橋ハートセンター（鈴木孝彦院長）は6日、同市消防本部へ心電図伝送システム8台（1台150万円）を贈った。死亡率や治療の遅延の改善が期待される。同システムは、心

電図伝送システムを佐原市長（右）に手渡す鈴木院長（左）と豊橋市役所で

臓全体を検査することが可能なワイヤレス12誘導心電図伝送で、救急搬送中に観察データを受け入れ先の病院へメールで送ることができる。病院は傷病者の状態を事前に把握でき、搬送後、専門医の治療へ迅速につなげることが可能となる。

鈴木院長は「搬送時にある程度の診断ができるので、心強い味方になる。現場と病院が近くなり、救急レベルがぐっと上がると思う」と話

した。今後、市内の循環器疾患搬送医療機関である同センター、豊橋医療センター、市民病院、成田記念病院の4機関で受信

用のタブレットを整備し、救急隊員らの研修を経て、救急の日（9月9日）から運用を開始する予定。

（飯塚雪）